

# 光といのち

第87号

2014年3月1日発行

—春彼岸—

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール ino-teyy@khaki.plala.or.jp

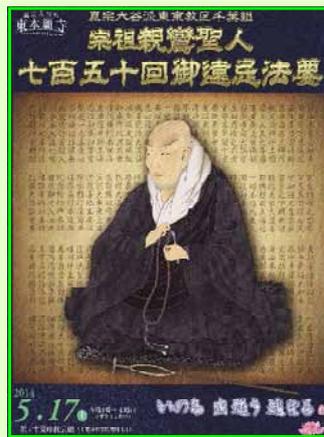
住職 井上孝昌

前住職 釋純昌 葬儀に際しまして、皆様方よりご厚情を賜り、有り難うございました。御礼申し上げます。

父は、家族と姉達の介護、富山国保病院を核とする訪問看護や介護ヘルパーの方々の力添えにより、自宅で臨終を迎えることができました。

この間、まもなく死んでいくいのちを生きる父に否応なく向き合わされ、「生きる」ということについて考えさせられました。葬儀では、その大変さを感じつつも、皆様とのお縁に生きた父（前住職）であったと知らされました。慌ただしくも葬儀を終えた今、前住職は、最後に無言の説法をして浄土に還ったように感じていきます。

臨終の存にて  
老人は  
そろそろ  
お正月  
お正月  
なんとなく  
この世を  
九十年  
九十年  
釋 純昌



日時

5月17日 (土)

午後1時～4時

会場

千葉市民会館

(小ホール)

大切な法要です。  
ご参加ください。  
申し込み締め切り

3月31日

## 勝善寺花まつり

4月6日(日)

午後1時30分～3時30分

お子様と、遊びに来てください。

「花まつり」は、お釈迦様の誕生を祝い、私たち一人ひとりの誕生も共に祝う行事です。

ほとけの子

お茶席もあります



参加費は無料です。準備の都合がありますので、参加を希望する方は、3月31日までにお申し出ください。

## 春彼岸会

3月21日 (金) 春分の日

午前10時～11時30分

本年の法要は、報恩講や御遠忌でのお勤めを、一緒に唱和します。  
御遠忌に参加いただける方は、ぜひともお参りください。



2014年  
1月31日

29世住職  
釋 純昌  
葬儀



前に生まれん者は後を導き 後に生まれん者は前を訪え



私の没後すぐ見て下さい。六十七才 純孝 S61 十一月十三日(木)と書いてある箱の中にあつた文章です。なお、不二「麓郎」はペンネームです。写真は、平成六年二月十三日撮影と書いてありましたので、孫娘は六才、おじいさんは七十五才です。

## 随想 猫の心・人の心

不二 麓郎

私の家は、いわゆる「二世帯住居」です。廊下のドア一枚を境に六人の家族が住んでいます。その内訳はとていまして、老人夫婦と、息子夫婦二人と孫二人で、老人の二人に対して若い者四人が同じ棟の下の異なる部屋の住人という訳です。老人の住んでいる方にはメス猫二匹が同居しています。数の上から言いますと猫もふくめて、老若同数で、それぞれ「ここがわが家なり」の心を持っていることには変わりありません。

孫の上の方は女で四才、下は男で一才ですから、おじいさんと七十位の差があります。女の子の方は、目のだれに対しても自分のことを「おねーちゃん」と言い、本当の名前で呼びますと不機嫌で、「おねーちゃん」と訂正させられます。孫の身体と心の成長は全く早いもので、軽々しく子どもあつかいなどしますと、

逆襲?してきますから、大人は「取扱注意」の慎重さを必要とします。

ある朝のことです。いつものように孫の女の子が境のドアを開けて牛乳を取りにきました。牛乳屋さんは七時前に外に置いてあるカゴの中へ、若い方の分と「おしより」の方の両方の牛乳を置いていきます。おじいさんが牛乳を取りに行きますと、孫と一緒になりましたので、孫が持って

行く分を取ってあげました。おじいさんは、「おねーちゃん」はその牛乳瓶を持ってすぐもどるだろうと思っていきましたら、そうではなかったのです。孫はカゴの中から「おしより」の方の分を取り出して、「ハイ、おじいちゃん!」と、「ニコっとおじいさんの顔を見上げました。四才の孫の心が、もうこういう風に育っているのか、と心の中で手を合わせたくなるような、そんなさわやかな朝を経験したことです。

六人の家族の中では、おじいさんが一番猫を可愛がります。といっても他のみんなが、全く猫がきらいだというわけではありません。おじいさんの子育ては、もちろんはるか昔に終わってしまった、今は毎日「二人の子ども」ミミちゃんとチーちゃんの飼育主任?として、楽しい余生!を送っている訳ですが、いったんか「猫の飼育方」という本を買って読んでみようと、まさに飼育主任を辞さなければならぬような飼育方、育て方を長年してきたのだなアと、反省させられたのでした。おじいさんの猫飼育は猫を本心に愛するというのではなく、いわゆる「猫かわいがり」だったのです。

その本には、こんなことが書いてありました。

・猫も人間も幸せになる飼育方

・子猫に牛乳は下痢のもと

・善いこと悪いことをはっきりさせる

・あなたは飼育方をまちがっていませんか

などです。読んでいて反省の汗がダラダラというのがいつものところでした。

飼育主のおじいさんは、なんでも「猫が喜ばばよい」というまじがった愛情から、いろいろな点で飼育方法を誤っていたのです。

(1)猫が食事をする場所は決めておくこと

(2)家族のみんなが食べる前に与えること

(3)先にご飯を食べた猫に、かわいいからといって自分の食べているものを与えないこと

おじいさんは、(1)も(2)も(3)もみんな反対のことをしてきたのですから、悪い飼育方、間違ったしつけをしていたといえましょう。猫も人の子も愛情の押し売りでなく、正しい愛情の水を注ぎたいものです。



八日講十日講の一本化

八日講と十日講は、昔から続いている女性の聞法会です。今までは年に2回ずつ別々に行っていました。が、一本化しました。各地区にこのような聞法会ができた嬉しいです。八日講十日講は本堂で行っていますが、遠い地区の場合でしたら喜んで馳せ参じます。ご門徒の皆様と寺の距離を縮めたいのです。



除夜の鐘の由来



梵鐘は、まもなく行事が始まるから集まってください」と地域の方々に知らせるためにあります。

私が子どもの頃から鐘突堂はありましたが、梵鐘は戦争で供出したためありませんでした。現在の梵鐘は、昭和48年に先々代釋義昌と先代釋純昌が復活させたものです。

以来、除夜の鐘を突くようになり、毎年50人ほどの方々が訪れます。

寒い中せっかく来てくれるのだからと、狩野平造さん田中文雄さん能重美恵子さんは、焚き火をし、川名喜昭さんは身体が温まる物を振る舞ってくれています。今回は豚汁でした。

修正会 わゆしようえ

正月に行う法要を「修正会」と言います。当寺では、二日午前10時から行っています。昔からこの日にご門徒方が、お年始にお参りくださっていたからです。お念仏申す生活を今年もしましょう。よろしく願いします」と互いに挨拶を交わし、「正信偈」をお勤めし住職の法話を聴聞します。人生のスタートラインを確かめ、一年を出発する大事な法要です。どうぞ来年は、ご家族皆様でお参りください。



「正信偈」を同朋唱和しています。

大雪による被害



去る2月8日14日の大雪で本堂向拝の榎などが破損しました。庫裏の屋根も破損しました。積雪20cmまでだったら大丈夫ということでした。皆様の処では如何でしたでしょうか？

行事予定

- 3月11日 親鸞教室⑤
  - 3月21日10時 春彼岸会
  - 4月6日13時30分 花まつり
  - 4月17日13時 親鸞教室⑥
  - 5月11日14時 同朋の会
  - 5月17日 千葉組宗祖親鸞聖人
  - 七百五十回御遠忌兼親鸞教室⑦
  - 6月1日14時 同朋の会
  - 6月8日9時 八日講十日講
  - 6月17日 親鸞教室⑧
  - 6月26日 婦人研修会②
  - 6月29日8時30分 奉仕作業
  - 7月20日14時 同朋の会
  - 8月10日10時 孟蘭盆会
  - 9月23日10時 秋彼岸会
  - 11月15日 報恩講
- ※ 以外は当寺が会場です。